

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900519		
法人名	株式会社だいふく		
事業所名	グループホームほのぼの広場(1F)		
所在地	愛知県稲沢市下津光明寺町39-1		
自己評価作成日	令和2年10月 1日	評価結果市町村受理日	令和3年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2373900519-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和2年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年に入り、新型コロナウイルス対策という大きな課題があり、ご家族様にも面会中止等ご協力いただいております。スタッフ一同、感染対策等話し合い実行し、今に至っております。今後社会情勢を見ながら取り組んでいきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、この1年間、新型コロナウイルス感染症対策や、それに関わる備品の確保に追われた年であったと振り返る。利用者と家族は、ガラス越しや電話による面会を余儀なくされる状況は続いている。しかし、疎遠関係にあった遠方の知人から気遣いの電話連絡が入るなど、コロナ禍だからこそその新しい発見と繋がりもある。
 コロナ禍でも日課の散歩は行い、地域住民とも関わりを継続している。利用者にとっては、「コロナだから」は通じようもなく、ホームとしてできる活動を最大限行い、コロナ禍以前と変わらない利用者の生活を支えている。職員の離職率の低さが強味のホームである。職員の高齢化が課題となっはいるが、利用者と家族の意向に柔軟に対応できる体制はホームのカラーであり、利用者と家族の安心でもある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつも同じなじみの顔 暮らしの喜び ゆっくりと楽しく」という理念のもと「普通の暮らし」の実現に努め、個々の状況に合わせた支援を行っている	ホーム内勉強会で、利用者の「普通の暮らし」の実現を話し合い、理念の理解・共有・実践に努めている。職員も理念の意義をよく理解し、利用者本位の日常を実現している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は新型コロナウイルスの影響で保育園、小学生、中学生との交流は全部中止となりました。しかし近所の方々に季節の野菜をいただく等の交流はあります。	日課の散歩は、コロナ禍でもできる限り継続している。ホームの畑を継続して世話をしてくれている近隣の方と、収穫時には、楽しい交流がある。地域のイベントなどは、コロナ禍の影響により中止となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に相談され支援の方法をお話するなどしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス対策のため、対面での会議は中止が続いているが、電話などで状況報告等している	1月までは対面で運営推進会議を行った。以降は市の指示(コロナ禍対策)により、書面開催としている。事前に関係者から意見を募り、議事録を作成している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルス対策のため、運営推進会議の中止は続いているが、電話やメール等使用し協力体制を維持するよう努力している	市の担当者とは、電話やメールを使用して、運営に関する報告・連絡・相談を通じて、協力体制の維持に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回の身体拘束適正化検討委員会を実施し、個々の状況に対しての事例検討を行っている。基本的に身体拘束をしないケアに努めている。玄関は施錠していない。	身体拘束適正化委員会を設置し、3ヶ月毎に委員会を開催している。利用者への支援に関して討議を行い、身体拘束の防止に努めている。議題内容はホームの勉強会で職員に周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会を行っており、個別指導も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に対して勉強会を行っているが、後見人制度を活用している利用者はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のケアに対する取り組み、又、家族の疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解と納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々家族の来訪が多くあり、意見や要望を伺って運営や支援に反映させている	新型コロナウイルス感染症対策については、家族の心配に配慮し、文書でホームの対応を連絡している。併せて、利用者のホームでの生活状況を細かく伝え、安心に応じている。利用料支払いなどの際に、家族の意向を直接聞き取り、改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃からコミュニケーションを取るよう心がけて改善点を一緒に考えている	3ヶ月毎のユニット会議において、職員意見を聴取している。毎月の勉強会は、司会進行役を毎回替えて実施し、勉強会の中でも意見が出しやすい環境を工夫している。管理者と職員の関係は近く、何でも話し合える環境がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が長く働ける環境づくりに取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内で勉強会を開き、同一目線での介護を心掛けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護は日々進歩しているため、新しい知識を各々が早く習得できるよう研修を多くしている、新型コロナウイルスもあり、今年は外部の講習会に参加できていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族や本人の面接を行い、不安や要望を聞いて本人の安心を確保するように努めている。また、ご家族は入居の際に、困っていることを隠される場合がある		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との対話を多くして不安や要望に耳を傾けて信頼関係を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で本人が周りを含め安心して暮らしていけるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室の掃除やテーブル拭き、洗濯物のハンガー掛けなど小さな事でも役割を持って生活できるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族との対話をできるだけ多くして共に支えていく関係を築けるように努力している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスのため外出も中止となり、外出行事が行えないため施設内の行事を多くしている	コロナ禍で外出を自粛している。電話による近親者とのコミュニケーションが主な支援となっている。また、疎遠だった人からの連絡が増えるなど、新しい馴染みの構築がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないように共通の話題を提供して利用者同士関わり合えるように支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退所されても家族の相談を受けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望を聞き取り、継続できる取り組みは介護計画に反映させている	職員全員で利用者全員を見て、多方面からの意見を集約し、利用者一人ひとりの意向や思いの把握と情報の共有に努めている。3ヶ月毎のユニット会議では、集約した意見をさらに話し合い、利用者の意向実現に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテークの場だけでは情報が不足することが多い、またご家族があまり把握していない場合もある、入所して何年もたってから実はご家族から生活歴の話が出てくることがある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活歴の違いがあり個性をいかした生活ができるように心がけている、特に出身地等の会話を多くしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議をして介護計画を立てている	基本的に、サービス担当者会議に家族も参加し、意見の確認と支援内容の見直しを行っている。計画作成担当者が主になり、職員意見も含めた情報を集約し、6ヶ月毎に介護計画を更新している。現在はコロナ禍で、電話や文書のやり取りが多くなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し健康状態の把握に努めている。また日々の日記をつけている。職員の対応や会話なども記録している状況に応じて介護計画の見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の思いや考え方を把握して柔軟に対応できるように努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中止が続く中、電話等使用し家族との話し合いをしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望でかかりつけ医を選んでいる。ホームの協力医の月1回の往診や、体調をみながら早めの対応ができるよう支援している	ホーム協力医による月1回の訪問診療を支援している。在宅からのかかりつけ医も選択可能とし、受診は原則家族対応となる。訪問看護による週1回の健康管理も行い、適切な医療につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問介護ステーションと連携して毎週来てもらっている。また施設内の看護師と相談し適切な受診、看護を受けられる様支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、新型コロナウイルスのためお見舞いや面会に行けず、退院されたときの状況がつかめなくなっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できるだけ終末期まで診れるように日頃から家族と病院との連携を深めている。看護師と相談しながらチームで支援に取り組んでいる	入居時には、ホームの重度化に伴う指針を説明し、できる限り意向に沿う対応を行っている。食事の経口摂取が無理になる等、ホームでの対応が難しくなった場合は、医療機関や他施設移行等、本人にとって最善な方法を話し合い、適切な移行支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の備えに対して訓練や研修会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常食や非常持ち出し袋、ライトのセットなどを用意している	年2回の避難訓練を実施している。コロナ禍の影響により、消防署員の立ち合いは中止とした。飲食料、必要備品の備蓄についても、適宜に見直し、必要なものを必要なだけ備蓄できるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように気をつけている、言葉かけにも気を付けるよう職員にも指導している	職員研修を定期的実施し、適切な利用者支援につなげている。利用者が不快な思いをしない話題や言葉掛けに注意し、ホームでの毎日が、利用者にとって幸福な日々であるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自主的な行動は難しい方もいるため、複数の選択肢から選んでいただけるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日のスケジュールはあるが、おひとりおひとりの生活ペースに沿って生活していただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容院やかかりつけの美容院に行かれる人もある。また、身だしなみに気をつけていただけるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配食材を利用して適切な量やカロリーを管理して豊富なメニューの食事を提供している、特に日曜日のお昼は希望メニューを提供しており、おはぎは特に喜ばれている	配食材を活用し、多彩なメニューで利用者の楽しみに応えている。ユニット交代で隔日に調理を手分けし、2ユニット分の炊事を行っている。自由メニューの日曜日は、利用者の嗜好や希望に沿った献立を工夫し、食の楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調に合わせて食事量や水分量、嚥下にあわせ食事形態を工夫して提供している。夏場は特に水分量に気を付けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。又、訪問歯科の口腔ケアを利用している人もいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間誘導だけでなく本人の行動やパターン、習慣を活かしてトイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としている。トイレ使用を長期継続できるように、声かけや誘導による支援を行い、利用者の状態維持に努めている。状態維持の取組みの成果で、布パンツ着用の利用者が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操や元気体操、ポール体操、天気のいい日には散歩などの運動を行ったり、食事にも気を使っている。特に水分の摂取量に気を使っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全面から職員の多い日中の時間帯で行っている。順番はできる限り変えて各々が入浴を楽しむことができるように支援している。体調不良の際は清拭をしている。	ホーム全体では毎日入浴がある。隔日にユニット交代で入浴を支援し、週3回前後の入浴ができるように、入浴管理を行っている。現在利用者に拒否は見られず、入浴を楽しんでいる様子が見える。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は一人ひとりにあわせ消灯時間は特に決めていない。昼夜逆転しないように気をつけている。昼食後には午睡の時間を設けているため、休みたい方は居室にて休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	業務日誌に薬剤情報を入れ、すぐに確認できるようにしている。また、薬を飲み終わるまで職員が支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションだけでなく、お好きなゲームや楽しみごとで気分転換をしていただいている。日常生活でできることは手伝っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は新型コロナウイルスのために外出ができず、運動不足にならないように室内での運動に取り組んでいる。また、外食ができないため、テイクアウトのお弁当を取り寄せるなど日常に変化をつけている。	コロナ禍により、行事外出は自粛となっている。日課の散歩や、庭を利用した家庭菜園や園芸など、外に出る機会を増やし、外気浴や日光浴の機会を設けている。外出ができない代わりに室内レクの充実、外食ができない代わりにテイクアウト利用等、利用者の気晴らしにも配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金のしまい忘れによる妄想のある方もあるため、お金は小額にさせていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会制限があるため、今年は例年以上に電話でのやり取りが増えている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は1日3回清掃している。毎月毎月の季節感を感じられるような壁紙を皆さんで作りに共に喜びを分かち合うことを大切にしている、また、各々の作品を掲示している	共有空間には利用者が作成した手芸品や作品、日常生活や敬老会などの行事を収めた写真を掲示し、賑やかな雰囲気を工夫している。常に明るい雰囲気が漂い、利用者は談話やレクリエーションに楽しみながら、楽しく生活している様子がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールだけでなくあちらこちらにおいてあるソファに座り交流を図っている、車椅子で自操される方は自由に移動していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室であり、ご本人の好みにしつらえていただいている。プライバシー保護には気を付けている。	入居時には、本人・家族と話し合い、本人の状態に合わせて馴染みの家具等を持ち込んでもらい、過ごしやすい環境作りに努めている。日中は共有空間で過ごす方が多く、特に就寝時に安心できる環境に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心、安全な環境づくりを目指して一人ひとりが自立した生活を送れるように工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900519		
法人名	株式会社だいふく		
事業所名	グループホームほのぼの広場(2F)		
所在地	愛知県稲沢市下津光明寺町39-1		
自己評価作成日	令和2年10月 1日	評価結果市町村受理日	令和3年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2373900519-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和2年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年に入り、新型コロナウイルス対策という大きな課題があり、ご家族様にも面会中止等ご協力いただいております。スタッフ一同、感染対策等話し合い実行し、今に至っております。今後社会情勢を見ながら取り組んでいきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつもと同じなじみの顔 暮らしの喜び ゆっくりと楽しく」という理念のもと「普通の暮らし」の実現に努め、個々の状況に合わせた支援を行っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は新型コロナウイルスの影響で保育園、小学生、中学生との交流は全部中止となってしまいました。しかし近所の方々に季節の野菜をいただく等の交流はあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に相談され支援の方法をお話するなどしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス対策のため、対面での会議は中止が続いているが、電話などで状況報告等している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルス対策のため、運営推進会議の中止は続いているが、電話やメール等使用し協力体制を維持するよう努力している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回の身体拘束適正化検討委員会を実施し、個々の状況に対しての事例検討を行っている。基本的に身体拘束をしないケアに努めている。玄関は施錠していない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会を行っており、個別指導も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に対して勉強会を行っているが、後見人制度を活用している利用者はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のケアに対する取り組み、又、家族の疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解と納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々家族の来訪が多くあり、意見や要望を伺って運営や支援に反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃からコミュニケーションを取るよう心がけて改善点を一緒に考えている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が長く働ける環境づくりに取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内で勉強会を開き、同一目線での介護を心掛けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護は日々進歩しているため、新しい知識を各々が早く習得できるよう研修を多くしている、新型コロナウイルスもあり、今年は外部の講習会に参加できていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族や本人の面接を行い、不安や要望を聞いて本人の安心を確保するように努めている。また、ご家族は入居の際に、困っていることを隠される場合がある		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との対話を多くして不安や要望に耳を傾けて信頼関係を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で本人が周りを含め安心して暮らしていけるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室の掃除やテーブル拭き、洗濯物のハンガー掛けなど小さな事でも役割を持って生活できるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族との対話をできるだけ多くして共に支えていく関係を築けるように努力している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスのため外出も中止となり、外出行事が行えないため施設内の行事を多くしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないように共通の話題を提供して利用者同士関わり合えるように支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退所されても家族の相談を受けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望を聞き取り、継続できる取り組みは介護計画に反映させている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテークの場だけでは情報が不足することが多い、またご家族があまり把握していない場合もある、入所して何年もたってから実はとご家族から生活歴の話が出てくることがある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活歴の違いがあり個性をいかした生活ができるように心がけている、特に出身地等の会話を多くしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議をして介護計画を立てている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し健康状態の把握に努めている。また日々の日記をつけている。職員の対応や会話なども記録している状況に応じて介護計画の見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の思いや考え方を把握して柔軟に対応できるように努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中止が続く中、電話等使用し家族との話し合いをしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望でかかりつけ医を選んでいる。ホームの協力医の月1回の往診や、体調をみながら早めの対応ができるよう支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問介護ステーションと連携して毎週来てもらっている。また施設内の看護師と相談し適切な受診、看護を受けられる様支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、新型コロナウイルスのためお見舞いや面会に行けず、退院されたときの状況がつかめなくなっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できるだけ終末期まで診れるように日頃から家族と病院との連携を深めている。看護師と相談しながらチームで支援に取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の備えに対して訓練や研修会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常食や非常持ち出し袋、ライトのセットなどを用意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように気をつけている、言葉かけにも気を付けるよう職員にも指導している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自主的な行動は難しい方もいるため、複数の選択肢から選んでいただけるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日のスケジュールはあるが、おひとりおひとりの生活ペースに沿って生活していただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	新型コロナウイルスのため、かかりつけの美容院への外出を控えている方には訪問の美容院をお勧めするなどして身だしなみを整えることができるよう心掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配食材を利用して適切な量やカロリーを管理して豊富なメニューの食事を提供している、特に日曜日のお昼は希望メニューを提供しており、おはぎは特に喜ばれている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調に合わせて食事量や水分量、嚥下にあわせ食事形態を工夫して提供している。夏場は特に水分量に気を付けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。又、訪問歯科の口腔ケアを利用している人もいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間誘導だけでなく本人の行動やパターン、習慣を活かしてトイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操や元気体操、ポール体操、天気のいい日には散歩などの運動を行ったり、食事にも気を使っている。特に水分の摂取量に気を使っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全面から職員の多い日中の時間帯で行っている。順番はできる限り変えて各々が入浴を楽しむことができるように支援している。体調不良の際は清拭をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は一人ひとりにあわせ消灯時間は特に決めていない。昼夜逆転しないように気をつけている。昼食後には午睡の時間を設けているため、休みたい方は居室にて休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	業務日誌に薬剤情報を入れ、すぐに確認できるようにしている。また、薬を飲み終わるまで職員が支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションだけでなく、お好きなゲームや楽しみごとで気分転換をしていただいている。日常生活でできることは手伝っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は新型コロナウイルスのために外出ができず、運動不足にならないように室内での運動に取り組んでいる。また、外食ができないため、テイクアウトのお弁当を取り寄せるなど日常に変化をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金のしまい忘れによる妄想のある方もあるため、お金は小額にさせていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会制限があるため、今年は例年以上に電話でのやり取りが増えているためか、昨年に比べて遠方からの連絡が増えている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は1日3回清掃している。毎月毎月の季節感を感じられるような壁紙を皆さんで作りに喜びを分かち合うことを大切にしている、また、各々の作品を掲示している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールだけでなくあちらこちらにおいてあるソファーに座り交流を図っている、車椅子で自操される方は自由に移動していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室であり、ご本人の好みにしつらえていただいている。プライバシー保護には気を付けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心、安全な環境づくりを目指して一人ひとりが自立した生活を送れるように工夫している		